

幼保小連携モデル事業 手稲区実践研究会

札幌市立手稲中央幼稚園、札幌市手稲区保育・子育て支援センター(ちあふる・ていね)
札幌市立手稲中央小学校

1 はじめに

区の幼保小連携推進協議会が実施されるようになって2年が経過した。それまで、地域によって行っていたり、行っていなかったりしていた幼保小の幼児・児童の交流や教諭・保育士の連携が盛んに行われるようになってきた。これは、とても大きな意義のあることで、就学して間もない児童が陥るとされてきたいわゆる「小1プロブレム」の解消に向けて大きく前進してきたことを表していると思う。ただ、区内の幼保の施設によっては、小学校と繋がりたいと思っても、様々な事情があり、難しさを感じているところも少なくない。

そこで、今回、比較的隣接している3つの公立の施設が、今まで行ってきた交流や連携の様子をまとめ発信することで、少しでも他の施設同士の連携の輪が広がることにつながっていけばと思い、協議を重ね実践してきた。また、どこの施設でもできる交流・連携をアピールすることが大切だと押さえ、特別なことではなくできるだけシンプルにかつ、実行しやすい形を模索してきた。

2 連携の意義

幼児教育と小学校教育のカリキュラムの接続とは、幼保の教育・保育を小学校以降の学びにつなげることである。それぞれの時期の教育・保育の在り方を全うしつつ、幼児期の教育・保育が小学校教育の学びを豊かにしていき、また小学校以降の学びを見通すことが幼児期の教育・保育の成果を確かなものとしていく。それにはまず、お互いの教育・保育施設がどのような特質をもち、子どもを育てているかを知り合うことが大切であると考えた。今回、手稲中央幼稚園の公開保育に、「手稲中央小学校」と「ちあふる・ていね」の先生方をお招きして、幼稚園での保育を見てもらい、研修会の中でそれぞれの施設で行っている子どもの育みについて意見交流することができ、そのことが後の交流活動の参考になった。また、子どもの立場で、どんな交流がどんな意味をもつのかを明確にしながら取り組んでいくことの大切さが浮き彫りになった。今後も互恵関係を大切にしながら連携を深めていきたいと考える。

3 今年度の取組



施設の活用

やがて1年生になる子どもたちが、安心して小学校生活を送ることができるように、小学校の施設を日常的に活用してもらい、小学校の雰囲気や施設に慣れ、また、小学校の子どもたちや先生とも顔見知りとなり、就学に向けての見通しや連携につながっていった。

小学校の体育館の利用

幼稚園や保育園に比べると小学校は、教室、廊下、階段、手洗い場、トイレなどいろいろなものが大きい。運動会の時に小学校の体育館の中で、走ったり、体操をしたり、踊ったりしたことは、子どもたちの安心につながり就学に向けての見通しにもなった。保護者にとっても、小学校のいろいろな施設を知るよききっかけとなった。



(運動会 入場)



(運動会 よさこい)

小学校見学

就学に向けて小学校の見学をした。実際にトイレや水飲み場を利用し、水を流す位置やハンカチを必ず持参しなければならないことなどを体験の中から学ぶことができた。

また、図書館や音楽室などを見学したり、授業を参観したりすることで「小学校に行ったら、大きな木琴を弾いてみたい」など、小学校に向けての期待につながった。



手を洗う蛇口が保育園とは違うね!!

(小学校見学 トイレ)



トイレにドアがあって大きいね!!

(小学校見学 トイレ)

小学校の校庭の利用

冬には小学校の子どもたちと、スノーキャンドルを一緒に作成した。また、スキー授業のない時は、小学校の校庭での大きな雪山を利用して、そりすべりをさせてもらった。



ここはどうやって塗るの?

(ポスター作り)

はみ出さないようにここに塗ってね!!



おねえさん力持ちだね!!

(スノーキャンドル作り)

交流活動の実際 ①

手稲中央幼稚園は、手稲中央小学校の校区内にあり、互いに行き来することのできる距離、位置関係にあるため、以前から年長児と1年生との交流や年長児と6年生との地域イベントを通じた交流を継続している。年度ごとの互いの園児、児童の実態、保育や授業の計画に応じて具体的な取組内容には柔軟性をもたせて実施している。

幼稚園の願い

- 小学校という場や小学生への憧れの気持ちの育み
- 就学への安心感、期待の高まり
- 小学生(年長者)との触れ合いを通して、人と触れ合う心地よさを感じる

小学校の願い

- 年下の子を思いやる気持ち
- 年長者としての自覚と自立心の育み
- 相手意識の育み
～園児の立場に立って考え、行動する
～相手を楽しませようとする意識

＜11月 一緒に遊ぼう！＞
年長児と1年生の交流①

体育館は、運動会で使ったよね。学習発表会も見せてもらったね。

じゃんけん列車初めて会ったけど、みんなで遊ぶと楽しいね！

1年生が自信をもってリードできるゲーム(学習で経験したゲーム、内容)を選択。



体育館は、僕たちがいつも使っている場所。ゲームも、優しく教えてあげられるよ。

初めての出会いが、次につながるように

＜ウインターデコレーションの
スノーキャンドル作り＞
年長児と6年生の交流

きれいにできたよ！6年生ってすごい！

〇〇ちゃん、嬉しそう！うまくいってよかったね。

6年生から年長児へ、スノーキャンドル、キャンドルカバーの作り方を伝授。



名前を呼び合えるよう名札を付けて

＜2月 一緒に遊ぼう！＞
年長児と1年生の交流②学校探検

入学間近な時期に、小学校を訪問。一緒に遊ぶ機会を通して、進級と就学への期待を高めることに。



雪遊びの後は、学校探検

私たちが押し上げてあげる！大丈夫かな？

どきどきしたけど、1年生は優しくよかった。

＜交流の成果と課題＞

- 成果～幼児は、回数を重ねる毎に、小学校への期待や憧れの気持ちが生まれ、交流や訪問を楽しみができるようになった。接したことのない小学生の関わりを受け入れ、遊び・活動への関心が育まれた。また、児童は年長者としての意識や自覚をもって、園児に合わせた行動や関わりを取る姿が見られるようになった。児童同士が協力し合ったり、意欲的に活動に取り組んだりする姿が見られた。
- 課題～互いに教育課程等に位置付け、年間を通して継続して取り組んでいくことで、交流を更に意義のあるものにしていける。そのためにも、互いの幼児、児童理解に努め、授業案を共同で作成するなど、職員が学び合う機会を重ねていくことが必要である。

交流活動の実際②

幼児同士の交流は、幼稚園とちあふる（保育所）が行った。比較的近くにある施設のため、移動がしやすく、手軽に交流することが可能だった。

同じ地域に生活する子どもたち同士が顔見知りになること、親しみをもち関わりを楽しむことで、就学への安心感をもたせたいというねらいのもと、年長児同士の交流を年に3回実施した。

<第1回 はじめまして！>

集団遊びの中で関わり、「一緒に遊んで楽しかった」という思いをもつ。



はじめまして。
ちょっとドキドキ…。

リレー、
楽しいね！



<第2回 またあえたね！>

自由な遊びを中心にするので、それぞれ主体的に遊びに向かう様子が見られた。「楽しい！」「嬉しい！」という気持ちを共有することができた。



園庭で一緒に
ブドウ狩り。



輪投げやさんです！
いらっしやい！



ドッジボールやろう！
負けないぞ！

<第3回 ひさしぶり！>

自由に雪遊びを楽しむ。3回目なので、名前や顔を覚え、誘い合って遊ぶ。



こっちで
遊ぼう。



雪合戦
しよう！



歌を発表し合ったよ。

<成果と課題>

- ・一斉活動での交流だけでなく、自由遊びの中で自己発揮し合うことを願い、計画をすり合わせていったことで、遊びの中で互いに積極的に関わろうとする姿を引き出すことができた。
- ・交流の回数を重ねることで、顔を覚え親しみが増す。幼稚園・保育園それぞれの生活時間の違いはあるが、日程調整や交流時間の確保において互いの積極的な姿勢があることが大切である。

一貫性のある保育・教育活動を目指して

今回のモデル事業では、幼稚園・保育所と小学校の保育・教育活動を一貫性のあるものにするため、下記のような連携を模索してきた。

- 1 手稲中央幼稚園の公開保育に向けての連携
- 2 小学校教諭による幼稚園・保育園の保護者向けの説明会
- 3 小学校による施設の貸出
- 4 児童と園児の交流活動

幼稚園の公開保育に向けての連携

手稲中央幼稚園が行う年1回の公開保育に向けて、手稲中央小、ちあふる・ていねの先生方をお招きして、事前研修会を行った。手稲中央幼稚園の保育内容や研究内容を説明し、そのうえでそれぞれの施設の教育・保育内容を関連付けながら、意見交流を行うことができた。そのことで、お互いの教育内容をよく知ることができた。また、日常の業務を進めていく上での悩みなども交流することができた。幼保が大切にしている「遊びや生活の中から感性や表現力・思考力・コミュニケーション力を育む」ことが、小学校においてさらに強く結びつき、児童の学習の基盤となっていることが確認できた。

公開保育当日にも参加していただき、いろいろな意見をいただくことができた。そして、その後の児童・幼児の交流に向けてしっかりとした基盤を作ることができた。職員同士の交流の大切さが浮き彫りになった。

小学校教諭による幼保での説明会

例年、12月～1月頃に行っている。小学校に新入学する保護者は、新しい生活に向けて、期待と共に不安も抱えている。大きなものは、安全に対する不安である。送り迎えのある幼保から、子ども一人で登下校する小学校への入学であるから当然であろう。

また、文字、数字などをどこまで教えておけばよいかという不安も大きいようである。それらの不安を解消すると同時に、小学校として保護者に取り組んでほしいことを伝えるようにしている。大きくまとめると「少しずつ自律させてほしい」ということである。

いつも、説明会後は、保護者の表情が幾分柔らかくなるように感じる。

小学校の施設見学

小学校がどんなところかを知ることは、園児や保護者にとって大きな安心感につながるようである。さらに本校に来る子にとっては、期待をふくらませ、がんばろうという決意を強くする効果もあると思われる。学習発表会を鑑賞したり、交流の時に学校の中を見学したりすることは、とても有効であった。今後は授業参観などを行い、さらに小学校生活への安心感と期待感をもたせることにつながればと考えている。



2月 小学校を学校探検
先生に校内を案内してもらおう

児童と園児レベルでの交流活動

成果として大きいものは、一年生にとって、お世話をするという経験を、学校生活において初めてできることである。

日頃の学校生活において、学習・生活態度が上手に行えている児童だけではなく、どの児童も「優しくしなくちゃ!」「自分のやりたい気持ちを抑えなきゃ」「困っている子はいないかな」など、お兄さん・お姉さんらしい態度で行動していた。

この経験は、入学したときに、必ず生きるはずである。



課題～今後に向けて

まず、幼稚園との交流を生活科などの教育課程に組み込んでいないため、取組の開始が遅くなってしまった。1年担任としても、どの時期に何を行えばよいか迷ったようである。活動のねらいも不確定であるため、1年生側としては、児童に何を求め、どのように評価を行えばよいかという迷いもあったようである。

また、児童と園児の人数が違いすぎるため、交流の密度に個人差が出てしまうことも課題である。生活科として行うのであれば、個人と個人の交流が欠かせないため、これは大きな課題である。

手稲中央小学校1年生と
手稲中央幼稚園年長児との交流



園児を迎えてお世話をするという活動は、小学生にとって意義がある。しかし、時期、内容、お互いのねらいを相談し、小学校としては教育課程に組み込んでいくことが必要である。

幼稚園としては、学校・授業見学や給食体験を行いたいとの希望がある。見学については時期とねらいを精査すれば可能である。しかし、給食交流についてはアレルギー対応があり難しい。できるとすれば、弁当を持ち寄っての交流程度であると思うが、こちらも時期とねらいを考えていかなければならない。

これからも、互いの教育内容や指導方法の違いを理解し、学び合おうとする姿勢をもち続け、子どもの発達をつなぎ、柔軟性のある接続期の教育を進めていきたい。そのためには、小学校のスタートカリキュラム作りに幼稚園・保育所の先生方に参画してもらったり、1年生になった子どもたちの様子を見てもらったりすることが有効な手だてになるのではないかと考えている。

手稲中央小学校6年生と
ちあふる・ていね、
手稲中央幼稚園年長児との交流
～スノーキャンドル作り～

6年生 総合的な学習の時間 「ていねウインターデコレーション2015」実施計画

1. 単元名「ていねウインターデコレーション2015」
2. ねらい
□札幌の冬を楽しむため、雪とふれあうとともに、保護者や地域の方々にも見て楽しんでもらう。
□子どもたちが協力してスノーキャンドルを制作することで、連帯感をもつ。

3. 活動計画と日程（15時間）

時間	日程	活動内容
1	1/22（木） 6校時（視）	○幼稚園やちあふるの園児とともにスノーキャンドルを作成しウインターデコレーションを作り上げようとする気持ちをもたせる。
2	1/23（金）	○交流のためのグループを作成。（各学級で）
3～4	1/28（水） 5、6校時	○幼稚園児に作り方を教えるための方法を考え、自分で作ってみる。（学年一斉・裏の教材園で）
5～7	1/26～2/3 （各学級）	○自分で作った経験から作り方教え方のコツを交流する。 ○キャンドルカバー作成準備（ペットボトル切断とビニールテープ貼り）
8、9	2/4（水） 5、6校時	○6年生用のスノーキャンドル作成設置・予備の作成、前日確認・準備（場所は裏の教材園）
10～12	2/5（木） 1～3校時	○幼稚園児、保育園児にキャンドルの作り方を教えながら一緒に作り、点灯場所に設置する。 ○園児が家庭に持ち帰るプリントを作成する。 ○保育園児と一緒にキャンドルカバー作成やちらしの色塗りをする。
13	2/5（木） 6校時	○作成したキャンドル台にろうそくを設置するなど、ていねウインターデコレーション参加にむけての準備を行う。
（時間外）	2/5（木） 放課後 2/6（金）	☆ていねウインターデコレーションの点灯式に参加。（放課後のため自由参加） ☆点灯17：00～19：00 消灯後各会場の職員により撤収作業
14～15	2/12以降	○これまでの活動を振り返り、ワークシートに記入。

4. 期 日 【制作】 平成27年2月5日（木）1校時～3校時
【点灯式準備】 2月5日（木）6校時
【点灯式】 2月5日（木）17：00
※17：00～19：00まで点灯
※6日（木）19：00頃に消したら、キャンドルやカバーは片付ける。
※式及び点灯・消灯作業はそれぞれの会場で行い、児童や園児は遠征しない。

5. 会 場 【制作】 手稲中央小学校（校舎裏の教材園のあたり）及び手稲中央幼稚園
【点灯】 手稲中央小学校校地内モニュメント前と国道側の歩道、脳神経外科の玄関スロープ
手稲中央幼稚園周辺、ちあふる・ていね周辺
※台座やスペース等は、それぞれの会場で用意する。
※昨年までは作成数日後に移動させたが、今年度は作成後、点灯場所に直ちに設置する。

6. 作成予定個数
基本的にも子ども1人が1つ作成
手稲中央小学校用…122個 ちあふる・ていね用…31個 手稲中央幼稚園用…34個
（時間に余裕があればもっと作りたい）。

資料2

ていねいウインターデコレーション 園児とのスノーキャンドル制作詳細

■制作日：2月5日（木）

	<p>【ちあふる園児】31名+職員2名 【6年生児童】61名予定 【小学校担任】（青柳）（須藤） 【準備する道具】バケツ、植木鉢、移植ごて、キャンドルカバー、塗り絵のチラシ、マジック、水用バケツ</p>		<p>【幼稚園児】34名+担任4名、主任1名 【6年生児童】61名予定 【小学校担任】（本間）（奥田） 【6年生の持ち物】バケツ、植木鉢、移植ごて、キャンドルカバー、塗り絵のチラシ、マジック、リュック</p>
9:10	6年生、あすなろプレイルームへ	9:00	小学校出発
9:15	園児来校 あすなろプレイルーム集合 □児童、園児に分かれて集合。6年生はあらかじめグループごとに集合。	9:15	手稲中央幼稚園到着 □児童、園児に分かれて集合。6年生はあらかじめグループごとに集合。
9:20	□挨拶（児童・先生） グループ確認（園児合流） □グループ内で自己紹介 □6年生4名+園児2～3名を基本	9:20	□挨拶（児童・先生） グループ確認（園児合流） □グループ内で自己紹介 □6年生4名+園児2～3名を基本
9:30	キャンドルカバー制作 手順等の説明（児童・先生） □基本的に園児数分+予備を作成 □早くできた園児はチラシに着色（クーピー）	9:30	スノーキャンドル制作 【場所】手稲中央幼稚園園庭 □園児の数分+予備を作成 □予備は6年生が作成する。 □作成後、点灯予定場所に直ちに設置する。※水を使用する予定です。設置場所の準備をお願いします。
10:00	終了	10:00	終了
10:10	校舎裏へ移動 グループごとに集合	10:00	□後片付け
10:20	スノーキャンドル制作 【場所】小学校校舎裏（教材園側） □園児の数分+予備を作成 □予備は6年生が作成する。 □作成後、園児はキャンドルカバーとチラシを持っていく。 □6年生はバケツごとキャンドル台を持って移動。	10:10	ホール集合 □グループ単位で集合 □6年生はビニル袋にジャンパーと外靴を入れておく。（指定の場所へ）
10:50	ちあふるへ移動	10:20	手順等の説明（児童・先生） キャンドルカバー制作 □基本的に園児数分+予備を作成 □早くできた園児はチラシに着色（クーピー） 終了
11:05	スノーキャンドルの設置 □ちあふるに6年生と園児と一緒に移動し、点灯予定場所にキャンドル台を設置する。設置場所の準備をお願いします。	10:50	園児と手遊びなどで交流 （昨年度はなべなべそこぬけ） 終了
11:20	□挨拶（児童・先生）	11:00	□挨拶（児童・先生）
11:25	ちあふる出発	11:15	手稲中央幼稚園出発
11:30	小学校到着	11:30	小学校到着
11:40	前日作成したものが破損していた場合補修を行う		